

東日本大震災津波伝承館

令和 2 年度事業計画

はじめに

令和元年 9 月 22 日の開館以来、3 月末で 14 万 8 千人と、県内外をはじめ、国外からも多くの方に来館いただいた。

一方、新型コロナウイルス感染症の影響が日ごとに増し、4 月に入り、来館者は減少に転じ、4 月 9 日には、道の駅、国営追悼・祈念施設の 3 施設は 4 月 12 日から 5 月 6 日まで臨時休館と決定し、5 月 5 日には、休館を 5 月 31 日まで延長した。その後、5 月 21 日の緊急事態宣言解除を受け、5 月 25 日から再開した。

再開にあたっては、いわゆる 3 密の回避をはじめとした各種感染症対策を強化することとし、来館者及び職員のマスク着用の徹底、検温の実施、手指消毒、受付の飛沫感染防止の亚克力板の設置のほか、館内においては、空調換気及び自然換気、職員によるこまめな消毒、共用端末等の利用停止、書籍の閲覧停止、床 2 m 間隔のマーク表示、シアター席等の間隔確保等に努めている。

新型コロナウイルス感染症の影響は、当面続くものと思われることから、伝承館としては、来館者が安心安全に見学できるよう、感染予防対策を徹底していく。

令和 2 年度は、東日本大震災津波発生から 10 年の節目となる。国内外からの来館者が安心して見学し、伝承館の解説を通じ、災害時の「避難」や「備え」の重要性など、防災意識の向上について、学びを深めていただけるよう、来館者本位の視点に立ち、日々改善を重ねながら運営に努めていく。

連携の取組では、岩手大学及び東北大学との学術的な連携を推進するとともに、県立大学の地域協働研究事業を活用したゲートウェイ機能強化に向けた調査研究事業を実施するほか、海外津波博物館との連携では、インドネシア・アチェ津波博物館とハワイ太平洋津波博物館との連携交流を推進し、津波学習拠点として世界の防災力向上に貢献することを目指すとともに、東日本大震災津波の復興への支援への感謝を情報発信していく。

また、三陸へのゲートウェイとして、国、市町村、観光施設等の関係機関と連携し、震災伝承施設や観光地をはじめとした交流人口の拡大へ貢献できるよう取り組んでいく。

I 展示事業

新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、常設展示及び企画展示の実施により、来館者に効果的な学びの場を提供する。

新型コロナウイルス感染症対策の取組状況

来館者及び職員のマスク着用の徹底、検温（サーモグラフィーカメラの導入）、手指消毒（消毒用アルコールの設置）、受付の亚克力板設置、空調設備及び自然換気、職員による展示設備等の消毒、共用端末等の利用停止、書籍の閲覧停止、床2m間隔のマーク表示、シアター席等の間隔確保等

1 常設展示及び解説員による分かりやすい解説の実施

機器類の維持管理等を実施するとともに、解説員による展示解説、展示（マップ類）の一部更新を行う。

また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、来館者が安心して見学できるよう努めていく。

(1) 展示施設の維持管理

動作確認等の日常点検及び年1回の保守点検を実施する。(令和3年1月予定)

(2) 解説員研修

団体対応等の解説業務を通じたノウハウを蓄積・共有しながら、解説員の展示解説能力の向上を図るとともに、展示解説研修及び接遇研修、救急・救命講習を実施する。

(3) 展示解説

予約団体への団体解説及び来館者への当日解説等を実施する。

※ 実施内容については、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて決定する。

(4) 展示の一部更新

市街地マップの時点修正、全面開園に向けた公園マップの更新準備等を実施する。

2 企画展示の実施

年4回、各1か月程度の実施を予定。第1回から第3回は、常設展示の各ゾーンから1項目を選び、内容を補足説明することにより、自然災害への理解を深め、防災力の向上に資するものとする。第4回は、東日本大震災津波の発災から10年にあたり、震災伝承の取組をさらに推進する企画を検討していく。

第1回 解説 ゾーン1-2「津波堆積物剥ぎ取り標本」

内容：ゾーン1-2に展示している「津波堆積物剥ぎ取り標本」について、詳しく解説する。

目的：展示資料から、大津波がくり返し襲来している事実を学び、津波災害への防災意識を高める。

また、最新の津波堆積物研究の成果に触れ、様々な手法により津波研究が進められていることについて、理解を深める。

期間：令和2年6月11日（木）～7月8日（水）

第2回 解説 ゾーン2-1「東日本大震災津波の時間経緯」(仮)

内容：ゾーン2-1に展示している「東日本大震災津波の時間経緯」について、詳しく解説する。

目的：東日本大震災津波発災時の警報（大津波）発表の時間経緯及び警報発表の仕組み、その後の改善点等を学び、防災力の向上に役立てる。

期間：令和2年9月8日（火）～10月11日（日）予定

第3回 解説 ゾーン3-3「避難行動の事実」(仮)

内容：ゾーン3-3に展示している「避難行動の事実」について、詳しく解説する。

目的：東日本大震災津波をはじめとする災害時の避難行動の実態や正常化の偏見（正常化バイアス）等について学び、適切な避難行動に役立てる。

期間：令和2年12月11日（金）～令和3年1月7日（木）予定

第4回 未定

内容：未定（東日本大震災津波発災から10年）

目的：震災伝承の取組を推進する。

期間：令和3年3月6日（土）～4月8日（木）予定

II 教育・普及事業

子どもから大人まで幅広い層のニーズに応じた学習プログラムを提供するとともに、セミナールームを活用したイベント等を通じて、幅広い層に震災伝承や防災に興味を持ってもらう。

1 利用者層に応じた学習プログラムの作成・実施

- (1) 小学生向け「震災伝承ノート」の作成
- (2) 中高生向け「震災伝承ノート」の配付、見学のサポートや学校での振返り授業等での活用
- (3) 一般向け「未来をつくる」ワークブックの配付、展示解説での活用
- (4) 県内の小・中・高等学校訪問による学校ニーズに応じた伝承館の利活用の推進
- (5) 来年度整備予定の野外活動センターと連携した児童・生徒向け学習プログラムの検討

2 セミナールーム等を活用した学習講座、語り部の講話等

- (1) いわて TSUNAMI メモリアル講座（企画展示関連講座、語り部講話等）
- (2) 共催展（関係機関、各種団体等）
- (3) 映画等上映会
- (4) ワークショップ・体験イベント等

3 復興教育関係研修会での利用促進要請

- (1) 復興教育関係研修会での当館の積極的な利用の呼び掛け
復興教育関係研修会において、県内の学校向けに、復興教育の一環として当館の積極的な利用を呼びかける。

Ⅲ 広報宣伝事業

広報宣伝活動は、新型コロナウイルスの動向を見ながら、展開していく。

1 情報発信

- (1) 報道機関への情報提供によるパブリシティ
大船渡記者クラブ及び県政記者クラブへの情報提供を通じて、県内向け報道の充実を図る。
- (2) ホームページによる情報発信
団体予約受付の案内及び団体予約状況を掲載。
当館について、常設展示、利用案内を掲載。
企画・イベント、お知らせを掲載。
震災語り部等の紹介を掲載。
- (3) ホームページの多言語対応
英語、中国語（繁体・簡体）、韓国語の翻訳ページを作成する。
- (4) SNSによる情報発信
「フォロワー数の増加」を当面の目標とし、継続的な投稿により「知ってもらい」「忘れられない」ことに努める。

2 教育旅行等の誘致

- (1) 岩手県教育旅行誘致説明会（東京、札幌、大阪会場）
岩手県教育旅行誘致説明会に継続的に参加して、「選択肢のひとつ」として位置付けてもらい、新型コロナウイルスによる往来に制限がなくなった際に利用いただけるよう努める。
- (2) 各種媒体を通じた働きかけ
県内の小中高校及び近隣県の学校に、伝承館を教育旅行や校外学習先として検討してもらえるよう、各種媒体を通じて働きかける。

3 その他誘客促進

- (1) リーフレット作成（日・英・中・韓）
今年度は、予定しているリーフレット日本語版の全面改定に合わせて、英語、中国語（繁体・簡体）、韓国語版を作成する。
- (2) 伝承館紹介動画制作
伝承館を紹介する動画を制作して、岩手県が開催・出展する各種イベント等で活用する。
- (3) 都営地下鉄広告
令和元年度同様、東京都交通局の復興支援を活用し、都営地下鉄全線全車両への中吊り広告を掲出する。
※ 実施時期は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて調整する。

IV 連携事業

展示事業、教育・普及事業及び広報宣伝事業の内容を充実・発展させるため、大学、類似施設等との連携を引き続き推進していく。

1 海外、大学、関係機関との連携

(1) 岩手大学、東北大学との連携

伝承館が、震災・津波災害から命を守るための効果的な学びの場を提供し続けられるよう、震災津波や防災・減災に関する専門的知見を有する岩手大学、東北大学（災害科学国際研究所）と、東日本大震災津波の伝承、発信、調査研究等に係る一層の連携推進を図る。

(2) 海外津波博物館との連携等による国際会議の開催

東日本大震災津波から10年の節目に、これまで交流のあるインドネシア・アチェ津波博物館及びハワイ太平洋津波博物館と連携し、国際会議を陸前高田市で開催し、震災からの復興と感謝、ミュージアム連携による防災力向上などについて情報発信を行う。

※ 開催については、実施時期の変更や代替案を含め、新型コロナウイルスの動向を見ながら、海外博物館と協議・調整の上、検討

(3) 岩手県立大学の地域協働研究を活用した「伝承館を拠点としたゲートウェイ機能に関する調査」

伝承館の来館者を対象に学生による対面方式のアンケート調査を実施。目的地（経由地）、消費額（宿泊の有無）、満足度（リピートの意向）を属性（年齢、性別、同行者、来場経験、居住地、訪問地、交通手段）や動機別（訪問目的）にクロス集計を行い、その結果を踏まえ、参加した学生を交えたワークショップ形式でマーケティング戦略の検討を行う。

※ 実施時期は、新型コロナウイルスの動向を見ながら検討

2 県内及び被災4県の震災伝承施設の取組

(1) 「震災伝承施設」追加登録に伴う展示施設の時点更新

震災伝承ネットワーク協議会において追加登録された「震災伝承施設」を、エントランスの展示施設「3.11 伝承ロード [地図]」に追加表示するなど、時点更新する。

(2) 3.11 伝承ロード推進機構の取組と連動した情報発信

3.11 伝承ロード推進機構の事業と連動し、広域的な震災伝承ネットワークの構築に向けた取組を推進する。（各種媒体の活用、ツアーの受入れ）